

早期再分極症候群における心室細動発症の季節性 および時間帯の検討：J-PREVENT Registry

前田真吾¹ 高橋良英² 野上昭彦³ 横山泰廣¹
沖重 薫⁴ 西崎光弘⁵ 平尾見三¹

【背景】Brugada症候群は、季節は春から初夏、時間帯は夜中から朝方にかけて心室細動(VF)の発症が多いことが知られている。本研究では、早期再分極症候群(ERS)でもBrugada症候群と同様な季節性、時間帯のVF発症形態を示すか否かにつき検討した。【方法】対象は、J-wave associated with prior cardiac event (J-PREVENT) registryに登録したERS症例とした。ERSは、特発性心室細動のうち下壁または側壁誘導、もしくはその両方における、少なくとも2つ以上の誘導でslurringまたはnotching型のJ点上昇(0.1mV以上)を認め、さらに少なくとも1回以上の心停止または失神の既往がある症例と定義した。フォローアップは、ICD記録を利用し、適切作動数・心停止・失神などのイベントを解析した。【結果】23例のERS症例(平均40±17歳、男性19例)において、平均43±41カ月のフォローアップ期間中に57回のイベントを認めた。VFの発症は秋から冬にかけて多く(4月～9月 vs. 10月～3月=2.0±1.5 vs. 4.2±1.3回/月, p=0.03)、夜中から朝方にかけて発症のピークを認めた[0:00～6:00; 34 events(64%), 6:00～12:00; 6 events(11%), 12:00～18:00; 7 events(13%), 18:00～24:00; 6 events(11%); p<0.01]。【結論】VFの発症について、ERS症例ではBrugada症候群と同様に夜中から朝方にかけて多く認められたが、季節性はBrugada症候群とは異なる結果であった。

Keywords

- 早期再分極症候群
- Brugada症候群
- 心室細動

1 東京医科歯科大学不整脈センター
(〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45)
2 国立病院機構災害医療センター循環器内科
3 横浜労災病院不整脈科
4 横浜市立みなと赤十字病院循環器内科
5 横浜南共済病院循環器内科

Seasonal and Circadian Distributions of Ventricular Fibrillation in Patients with Early Repolarization Syndrome : J-PREVENT Registry
Shingo Maeda, Yoshihide Takahashi, Akihiko Nogami, Yasuhiro Yokoyama, Kaoru Okishige, Mitsuhiro Nishizaki, Kenzo Hirao